

イマジカ・ロボットグループについて

JASDAQ 証券コード: 6879

株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス

Imagica Robot Holdings Inc.

2011年6月6日(月)

目次

グループ概要	p. 3
当社の戦略	p.11
事業セグメントの取組み	p.13
Appendices	p.25

グループ概要

会社概要

2011年4月1日現在

会社名	株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス（JASDAQ 証券コード:6879）		
設立	1974年6月10日（1935年2月18日：極東現像所として創業）		
本店所在地	東京都品川区東五反田2-14-1		
代表者	代表取締役会長 長瀬文男、代表取締役社長 長瀬朋彦		
事業内容	映像技術サービス事業、映像ソフト事業、放送事業、映像システム事業、人材コンサルティング事業を営むグループ会社の株式保有ならびに事業の統括		
グループ会社	連結子会社：17社		
従業員数 (2011年3月末時点)	2,039名		
発行済み株式総数	44,531,567株（うち自己株式数5,158,000株、除く自己株式数39,373,567株）		
主要株主 (2011年4月1日現在)	株式会社クレアート	62.6(%)	(注1)
	株式会社三井住友銀行	2.8(%)	
	株式会社フジ・メディア・ホールディングス	1.9(%)	
収支概要 (2011年3月期連結)	売上高	50,817 百万円	
	営業利益	3,501 百万円	
	経常利益	3,469 百万円	
	当期純利益	1,412 百万円	

(注1) 発行済み株式総数に対する比率

グループ組織再編を実施

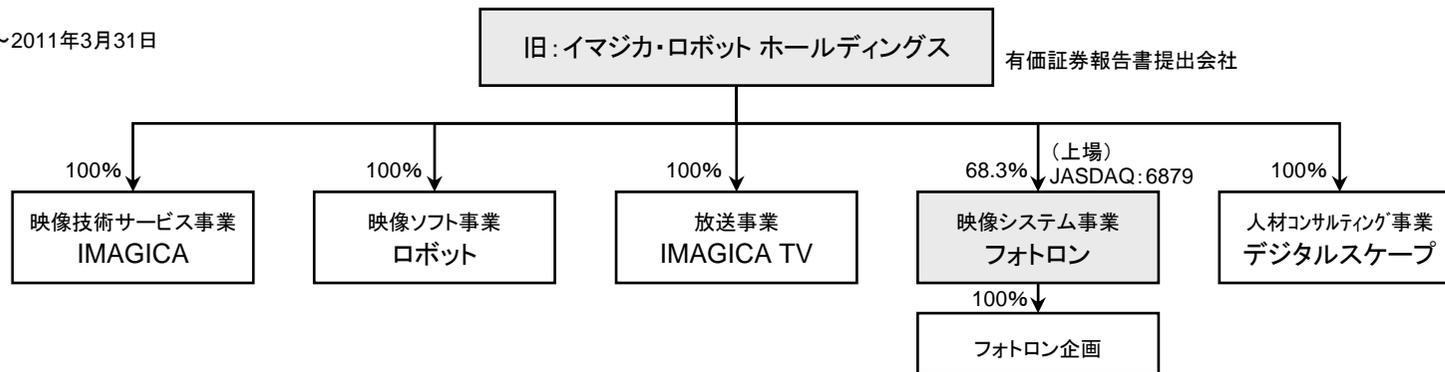
旧フォトロンを100%子会社化

- ・人材活用、資金調達の効率化
- ・グループ内協業による事業拡大

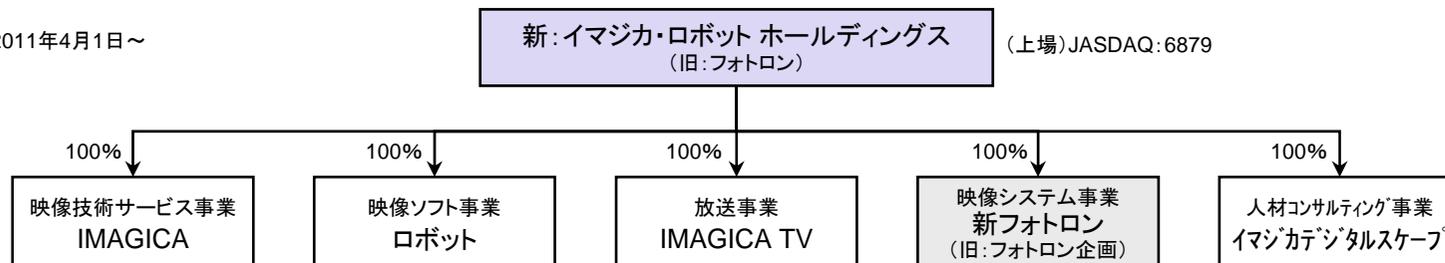
新：イマジカ・ロボット ホールディングス上場

- ・旧：フォロンの少数株主の保護
- ・親子上場の課題解消
- ・資金調達の強化、管理コストの削減

<旧：体制> ~2011年3月31日



<現：体制> 2011年4月1日～

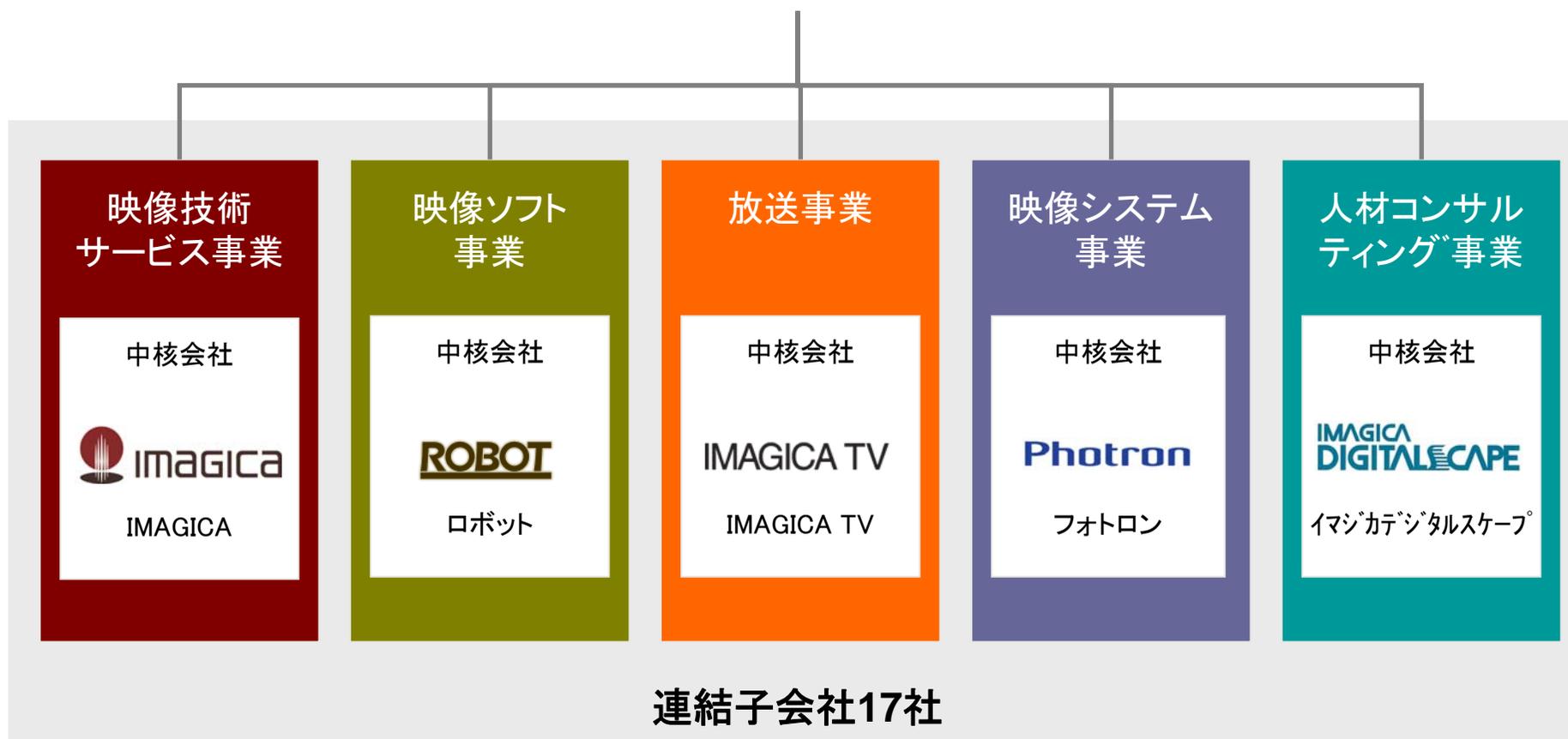


グループ事業概要

2011年4月1日現在

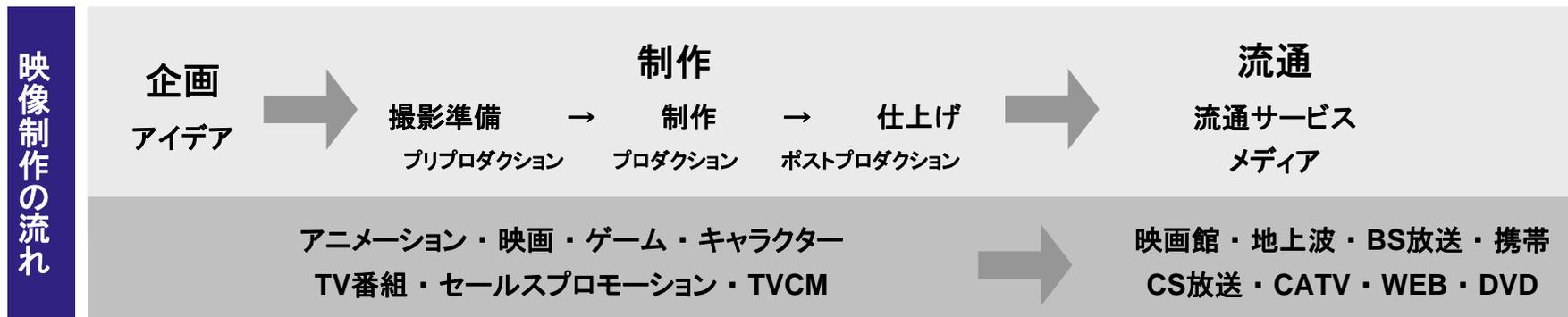
Imagica Robot Holdings Inc.

株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス

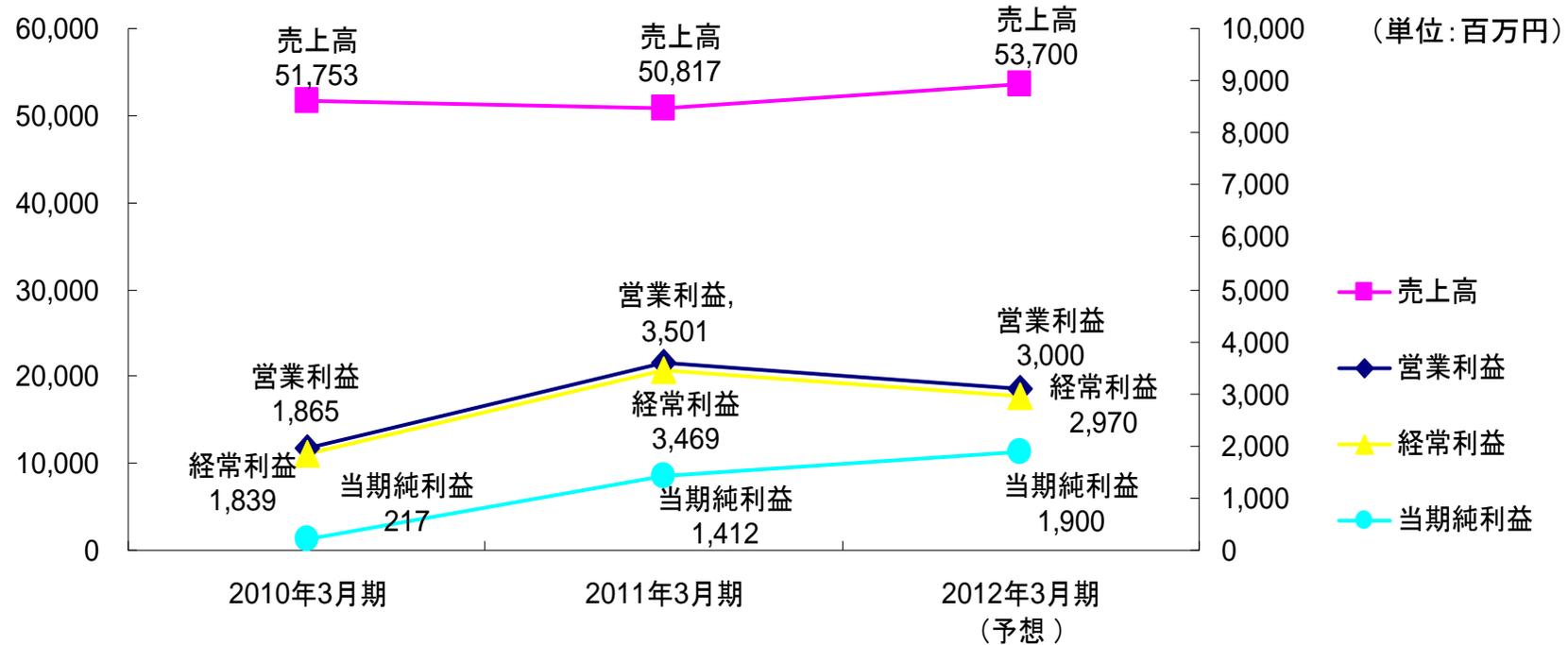


映像ビジネスにおける事業領域

映像制作の入口から出口まで、一貫したバリューチェーンを持つグループ



2011年3月期業績(連結)



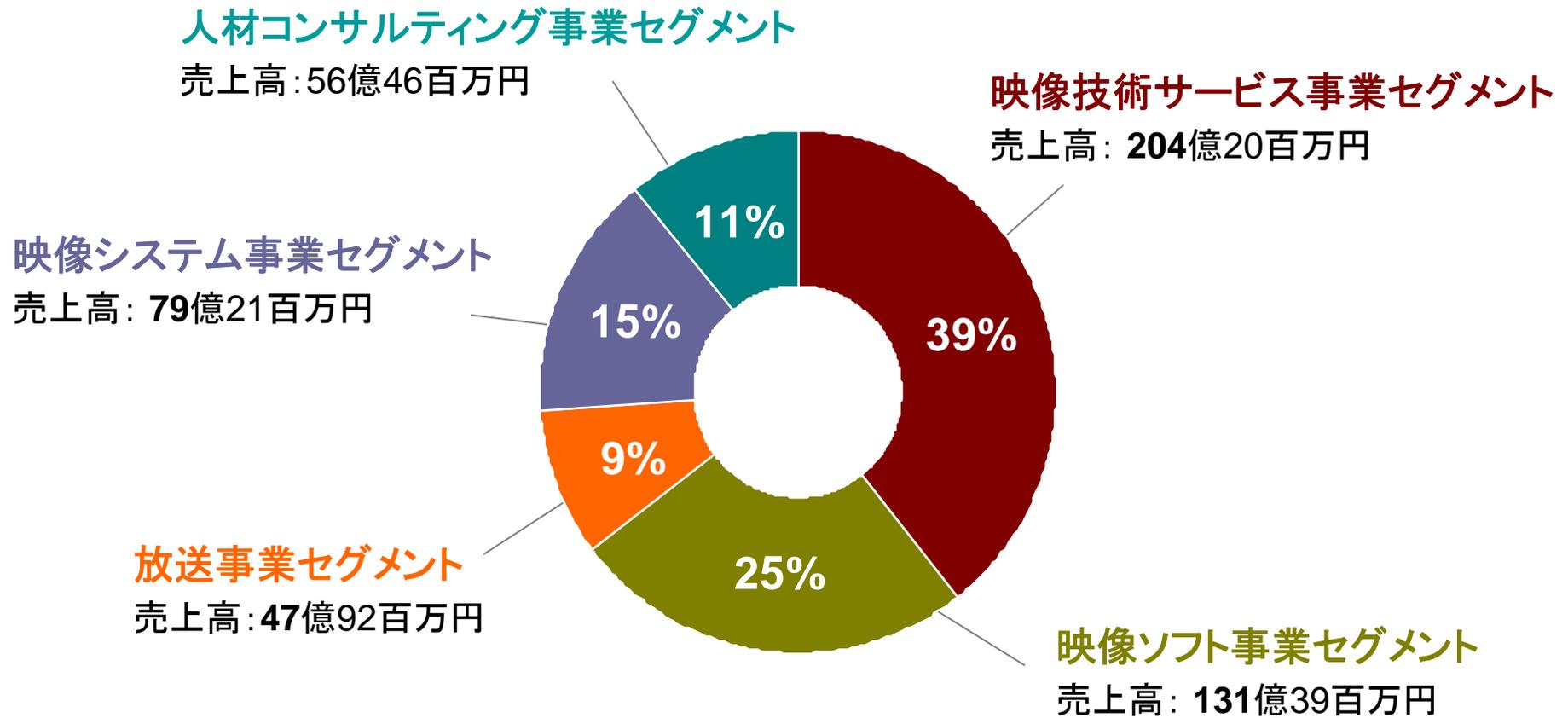
区分	2010年3月期 旧IRHD: 第8期	2011年3月期 旧IRHD: 第9期	2012年3月期 (予想) 新IRHD: 第39期
売上高	51,753	50,817	53,700
営業利益	1,865	3,501	3,000
経常利益	1,839	3,469	2,970
当期純利益	217	1,412	1,900

※2010年3月期、2011年3月期は、
旧イマジカ・ロボット ホールディングスの実績

(単位: 百万円)

売上高内訳

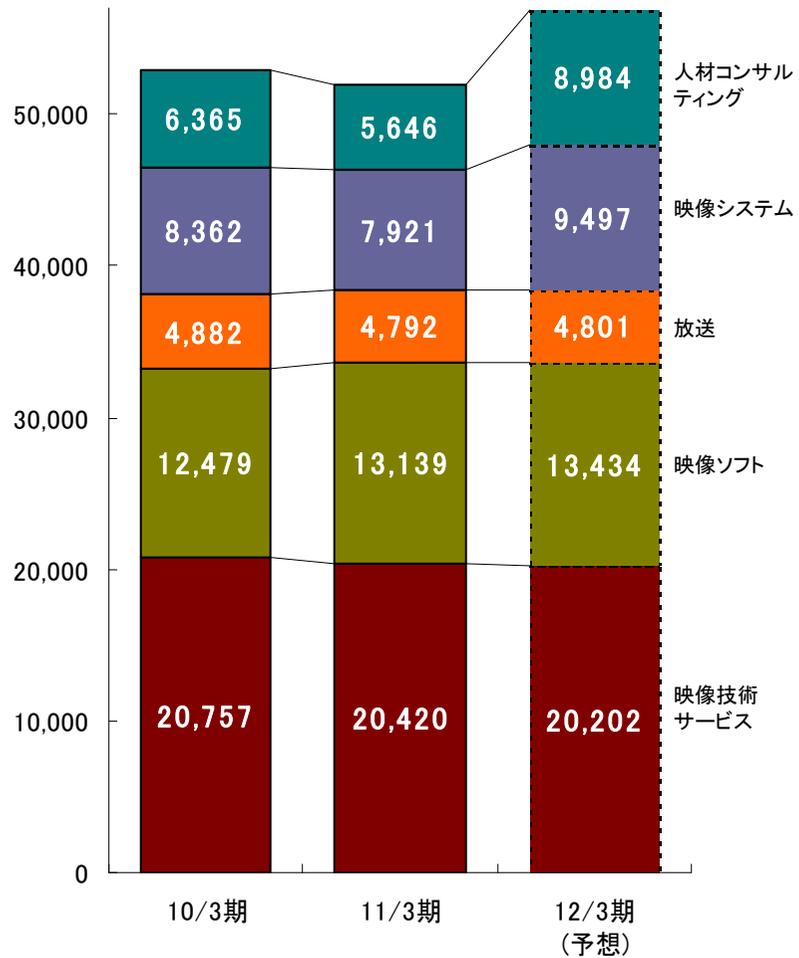
グループ連結売上高 508億17百万円(2011年3月期)



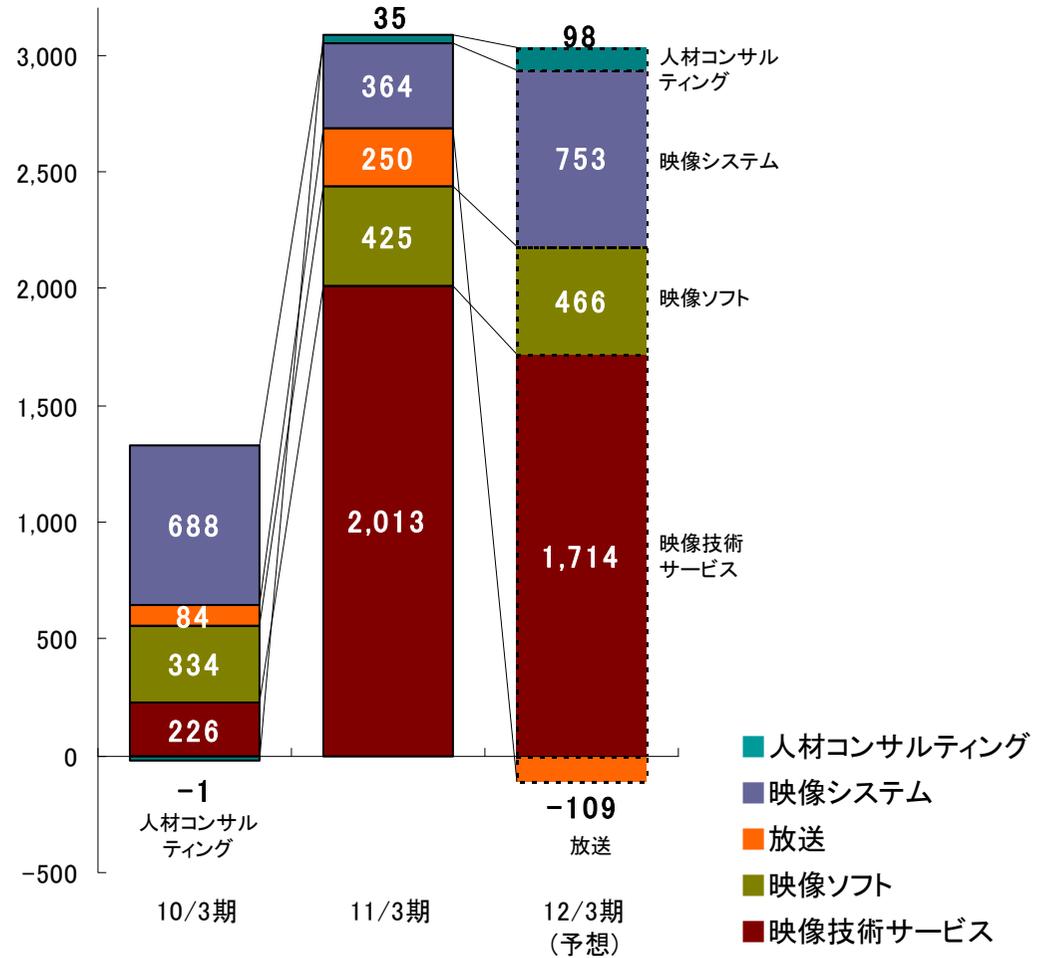
※事業セグメントの売上高計519億20百万円

セグメント情報

売上高



営業利益



※各事業セグメントの売上高と営業利益を積上表示しており、売上高合計、営業利益合計とは異なります。

当社の戦略

全社戦略

戦略の方向性

グループ一体化経営の促進

マーケット拡大

グループ知名度、信用度の向上

環境認識

デジタル化

ネットワーク化

多メディア化

ボーダーレス化

B to Cの可能性

事業セグメントの取組み

映像技術サービス事業(主に映像編集・加工)の特長

事業内容

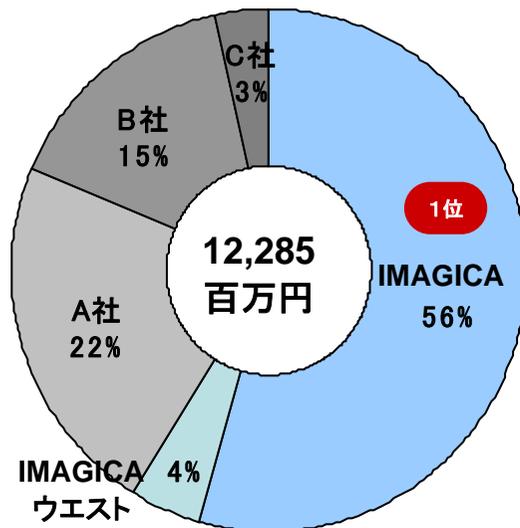
- ・映画フィルムの現像、プリント、合成加工
- ・テレビ映像の編集・加工
- ・各種メディア向け技術サービス(VFX・CGI制作、3D撮影・編集等)
- ・DVD/Blu-ray Discパッケージ化

中核会社



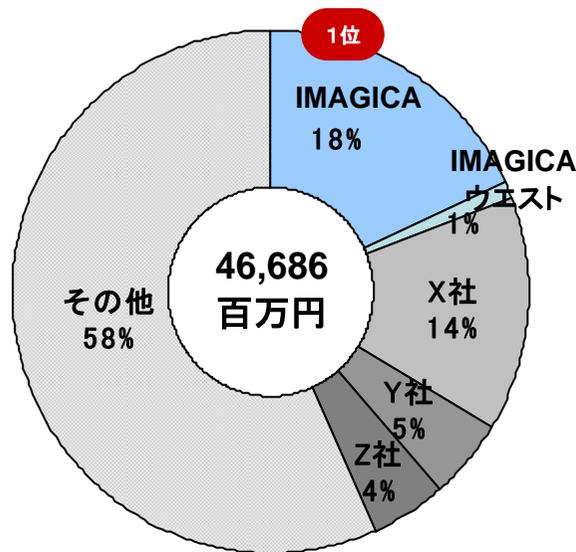
映画、TV、CMの3分野で映像処理を行う唯一の企業

映画フィルム現像市場シェア
(2009年)



(出所) 帝国データバンク調査書より引用

ポストプロダクション市場
(2009年)



(出所) 社団法人日本ポストプロダクション協会(JPPA)動向調査より

顧客のニーズに対応する
充実した設備と人材

テレビ局別に対応する設備

- ・湾岸スタジオ(フジテレビ内)
- ・品川プロダクションセンター
- ・赤坂ビデオセンター

※特にバラエティーに強み

グループ内で供給される
専門人材

映像技術サービス事業の取組み

成長分野への 事業拡大

デジタル上映に対応したサービス拡充
フィルムのブランド力を活かした事業展開

普及が加速する3D関連サービスの強化

映像ファイルベース化を見据えた技術提案による新規サービスの開拓

フィルム事業の 収益基盤強化

社内リソースの集約による更なる最適化

基幹ポストプロダクション事業における営業・技術両面の構造改革

映像ソフト事業(主に映像制作)の特長

事業内容

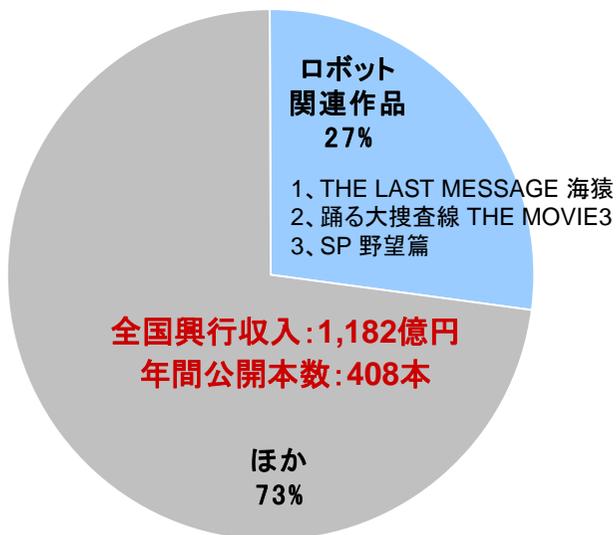
- ・映画、テレビ番組、アニメ、Web映像等の企画制作
- ・テレビCM等の広告制作
- ・ミュージックビデオ等の音楽映像制作
- ・各種映像コンテンツのライセンスビジネス

中核会社

ROBOT

ロボットが制作・出資した主な邦画作品名

興行収入に占める
ロボット関連作品シェア(2010年)



(出所)一般社団法人日本映画製作者連盟

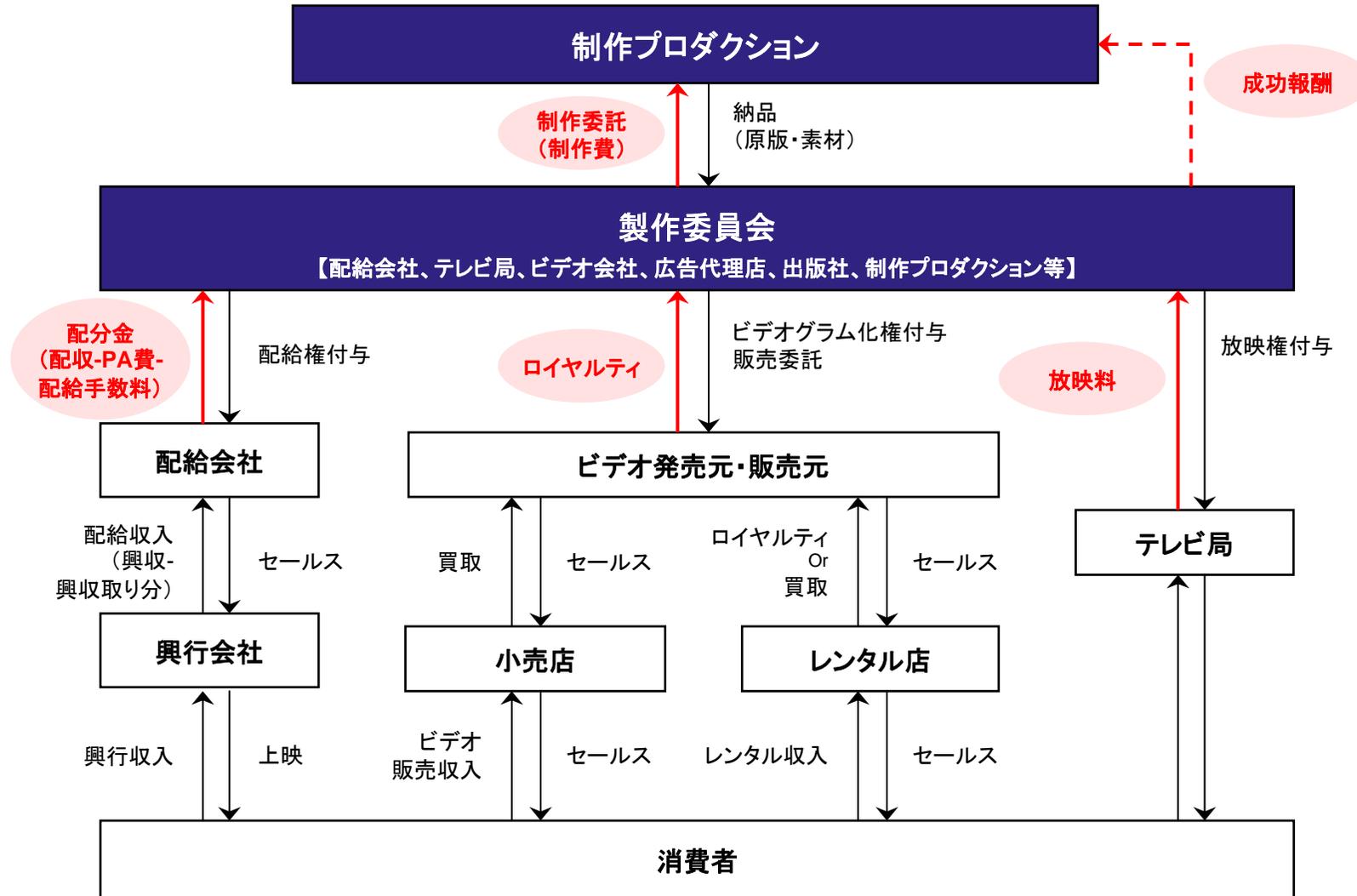
※ロボット関連作品は、制作および出資を含む

2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
LIMIT OF LOVE 海猿 2位 71.0億円	ALWAYS 続・三丁目の夕日 3位 45.6億円 日本アカデミー賞 ・優秀作品賞 ・優秀監督賞	少林少女 15.1億円	K-20 怪人二十面相・伝 20.0億円	THE LAST MESSAGE 海猿 2位 80.4億円
UDON 13.6億円	銀色のシーズン 10.4億円		BALLAD 名もなき恋のうた 18.1億円	踊る大捜査線 THE MOVIE3 ヤツらを解放せよ 3位 73.1億円
タイヨウのうた 10.5億円			つみきのいえ 米国アカデミー賞 ・短編アニメ賞	2011年 SPACE BATTLESHIP ヤマト 40.5億円

(出所)一般社団法人日本映画製作者連盟、当社調べ

(映像ソフト事業)

製作委員会の仕組み：多様な収益源



映像ソフト事業の取組み

映画分野

実績に根ざした受注拡大

【2011年度 制作予定の映画作品】

- ・「ALWAYS三丁目の夕日'64」…シリーズ第3弾（2012年公開予定）
- ・「RAILWAYS第2弾(仮称)」(2011年12月公開予定)
- ・「friendsもののけ島のナキ」…3Dアニメ（2011年12月公開予定）
- ・「ワイルド7」(2012年新春公開予定) 等

CM分野 プロモーション分野 (音楽映像分野)

ブランド力を活かしたマーケットの拡大

- ・ 映画、CM、ミュージックビデオ等で築いたブランド力、クリエイティブ力を活かし、より広い「広告映像」マーケットへ
- ・ WEB、タブレットPC、スマートフォンに対応した新たなプロモーションの提案

ライツビジネス拡大

映画・アニメ・モバイル端末向けなどオリジナルコンテンツの 企画制作

放送事業(主にチャンネル運営)の特長

事業内容

- ・衛星放送(BS/CS)、CATV、インターネット放送、ホテルペイテレビ等の番組の放送、コンテンツ供給
- ・映像コンテンツの企画・制作・編成

中核会社

IMAGICA TV

独立系の一角として有料専門チャンネルを運営 —食・旅・エンターテインメント—

CSデジタル放送開始時(1996年)から事業開始

	洋画★シネフィル・イマジカ 	食と旅のフーディーズTV 	歌謡ポップスチャンネル 
視聴可能世帯数	379万世帯(注2)	423万世帯(注3)	302万世帯(注2)
特長	非ハリウッド系名画Ch ハイビジョン放送	唯一の食専門Ch 特徴あるオリジナル番組	唯一の演歌専門Ch 40歳以上をターゲット

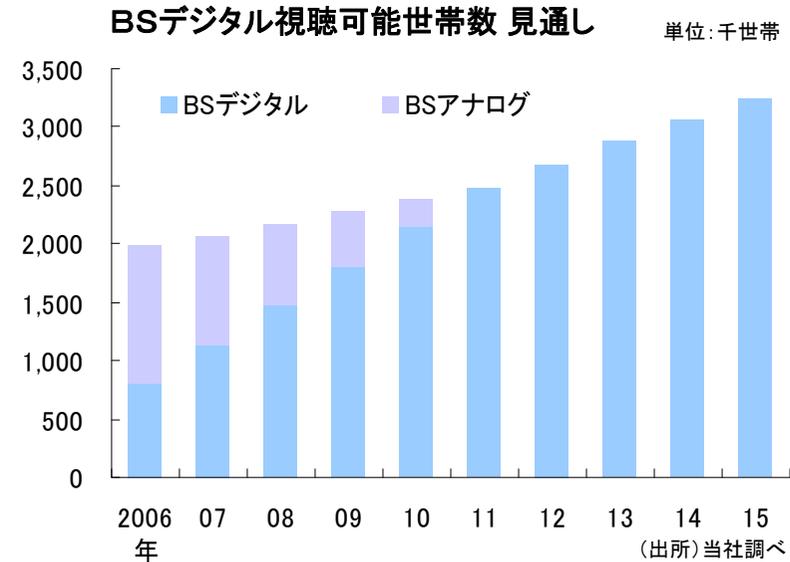
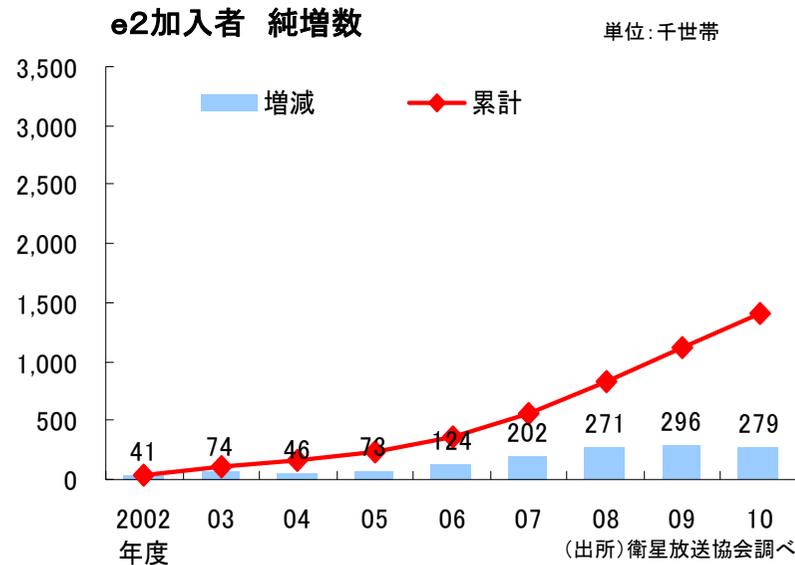
(注2)2011年3月時点、(注3)2010年6月時点

放送事業の取組み

BSチャンネルの開局

洋画★シネフィル・イマジカ
2012年3月開始予定の新BS放送の委託放送事業者に認定

110度衛星(BS/e2)は、今後家庭内の大型TVへの基幹メディア



各種デジタルメディア 対応サービス

タブレット端末、スマートフォン向けの新サービス展開
SNS(タベラッテ  **tabelatte** (注4))との組み合わせによるビジネス展開

コンテンツのマルチユースによる利益率向上
B to B to Cビジネス展開への布石

(注4)「タベラッテ」は、当社子会社が運営するレシピのソーシャルブログです。 <http://tabelatte.jp/>

映像システム事業(主に映像機器開発・販売)の特長

事業内容

- ・画像計測システム(高速度ビデオカメラ等)の開発・製造・販売
- ・放送用映像機器、LSIの開発・製造・販売

中核会社

Photron

放送・映像分野から学術分野、メディカル分野、官公庁と幅広く展開

ハイスピードカメラ

- ・ハイエンド機種に強み
- ・海外マーケット販売

メディカル分野向け 画像機器

- ・医療系商社との販売協力体制

放送局等向けの プロ映像システム

- ・ソフト、ハード両面をカバー
- ・システムインテグレーション

人材コンサルティング事業(主にクリエイター派遣)の特長

事業内容

- ・人材派遣、人材紹介の人材コンサルティングサービス
- ・WEB、GAME・CG等の制作受託サービス
- ・専任講師による人材育成

中核会社

IMAGICA
DIGITAL ESCAPE

デジタルクリエイターとITエンジニアに特化 <3つの分野におけるエージェント>

放送

【主要顧客】
(株)フジテレビジョン
日本放送協会
(株)NHKアート
(株)テレビ朝日クリエイト
(株)テレビ東京

Web

【主要顧客】
凸版印刷(株)
(株)三菱東京UFJ銀行
野村證券(株)
(株)リクルート
東急リバブル(株)

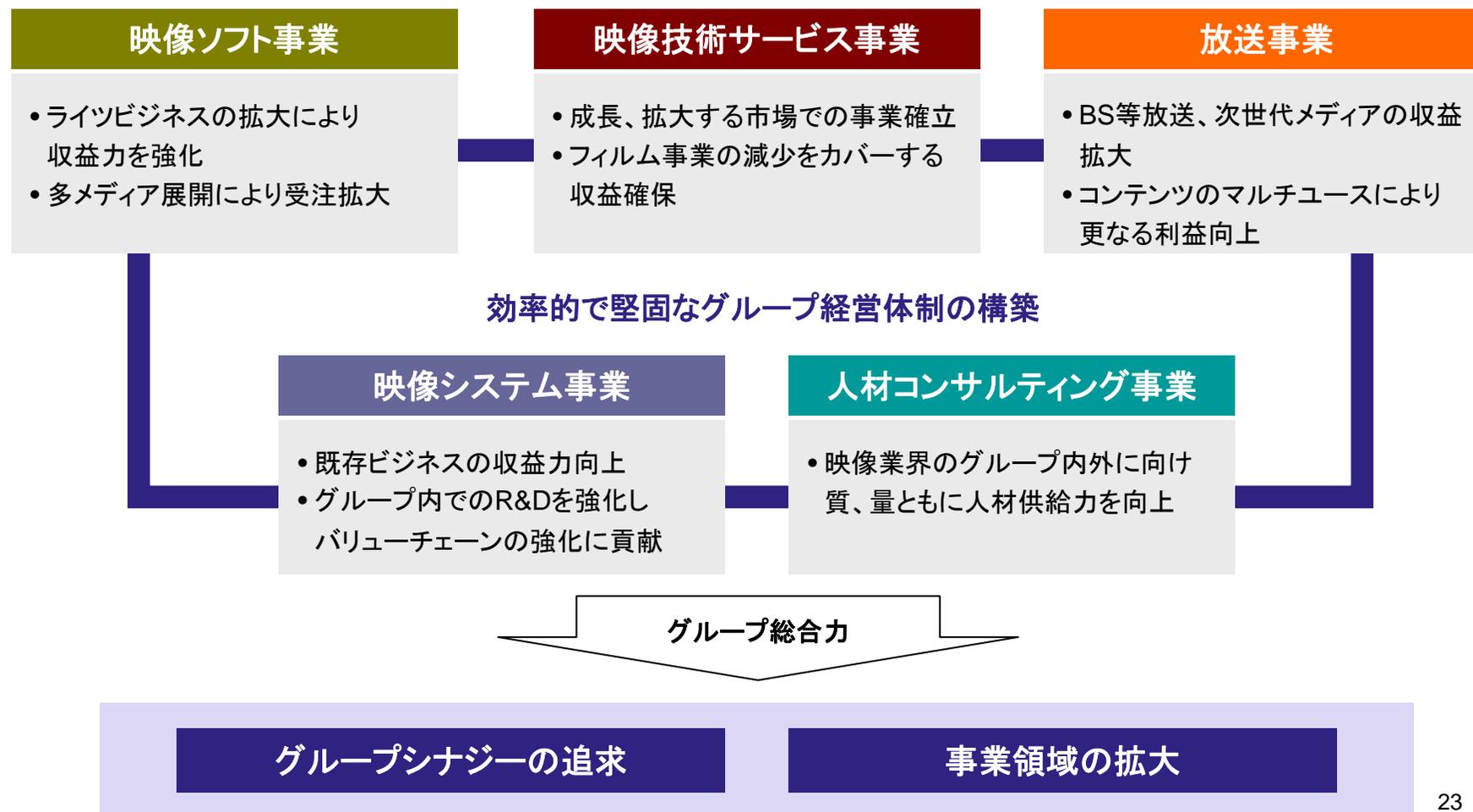
ゲーム

【主要顧客】
(株)コナミデジタルエンタテインメント
(株)カプコン
(株)スクウェア・エニックス
(株)セガ
(株)ソニー・コンピュータエンタテインメント
任天堂(株)
(株)バンダイナムコゲームス

- ・人気作品を担当できる強みで**トップクラスの人材を確保**
- ・顧客の要望に応じて、**人材派遣・制作受託の双方のスタイルに対応**
- ・**専門・先端機器への知見と新技術対応**
- ・**人材育成の好循環**:社内トレーニングとチーム派遣・業務委託で若手人材が成長
- ・**グループ内への人材供給**

各セグメントのミッションとグループ連携

グループ一体化経営を促進し、よりバランスの取れた一貫性のあるバリューチェーンに



グループ経営理念

MAGIC FACTORY

Image Magic Creative Magic Technology Magic Communication Magic

イマジカ・ロボットグループは、誠実な精神をもって、
映像コミュニケーションにおける新たな価値創造につとめ、
人々に楽しい驚きを与える“魔法の工場”をめざします。

Appendices

(ご参考) 当社株式関連指標二期比較

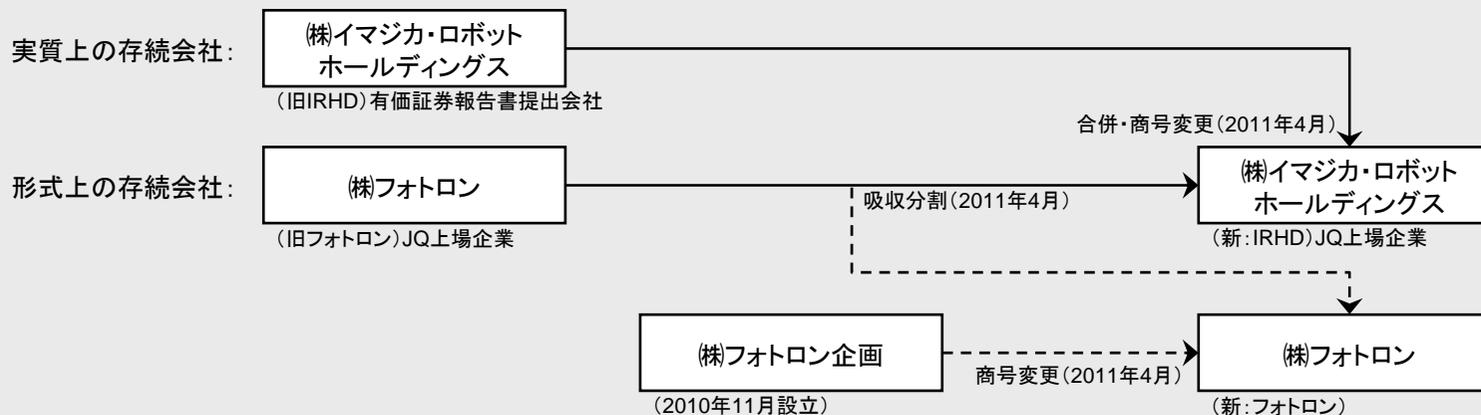
区分	2011年3月期				新:IRHD	2012年3月期(予想)	
	EPS	PER	BPS	PBR		EPS	PER
旧:IRHD	60.69 (注5)	—	872.73 (注5)	—		48.25 (注7)	6.67 (注9)
【参考】 旧:フoton	16.59 (注6)	24.11 (注8)	500.38 (注6)	0.80 (注8)		・2011年3月31日終値:400円 ・2011年5月27日終値:322円	

	2011年3月31日		2011年4月1日
	旧:IRHD	旧:フoton	新:IRHD
発行済み株式総数	23,271,330	7,547,550	44,531,567
うち自己株式数	-	250,111	5,158,00
除く自己株式数	23,271,330	7,297,439	39,373,567

(注5) 2011年3月31日の旧:IRHDの株式数を用いて算出しています。
 (注6) 2011年3月31日の旧:フotonの除く自己株式数を用いて算出しています。
 (注7) 2011年4月1日の新:IRHDの除く自己株式数を用いて算出しています。
 (注8) 2011年3月31日終値を用いて算出しています。
 (注9) 2011年5月27日終値を用いて算出しています。

当社の実質上の存続会社は旧:株式会社イマジカ・ロボット ホールディングスです。

形式上の存続会社である旧株式会社フotonの指標(上記)について参考標記しております。



イマジカ・ロボットグループの沿革

1935年2月	映画フィルム現像・上映用プリント事業を目的に、株式会社極東現像所として京都・太秦で創業
1942年 1月	商号を株式会社東洋現像所に変更
1986年 1月	商号を株式会社IMAGICAに変更
1992年 7月	映像機器開発・製造・販売の株式会社フォトロンへ資本参加
1996年 5月	CSデジタル放送を目的に、株式会社シネフィルを設立 同年10月より放送事業を開始
1997年 9月	株式会社フォトロンが株式店頭公開
2006年 3月	株式会社ロボットと経営統合

2006年 7月	商号を株式会社イマジカ・ロボットホールディングスに変更
2007年 2月	アニメプロデュースの株式会社ジェンコに資本参加
2009年 2月	短編アニメ『つみきのいえ』が米国アカデミー賞受賞
2009年 5月	人材コンサルティングの株式会社デジタルスケープに資本参加
2010年 9月	新規事業としてインターネットメディア会社の株式会社マッシュヴメディアネットワークを設立
2010年 10月	2012年3月に放送開始予定の新BS放送の委託放送事業者に認定
2011年 4月	株式会社イマジカ・ロボットホールディングスが上場企業に

M&Aを核として事業領域を拡大

ヒット作を生み出すディレクター陣

ロボット所属の映画監督 —20名以上の映画・CM・アニメーションディレクターが在籍—

<p>本広 克行</p> <p>1998年より ロボットに所属</p>	<p>【主要監督作品】</p> <p>1998年 「踊る大捜査線 THE MOVIE」 1位 50.0億円 (注10)</p> <p>2003年 「踊る大捜査線 THE MOVIE 2 ～レインボーブリッジを閉鎖せよ～」 1位 173.5億円</p> <p>2005年 「交渉人 真下 正義」 3位 42.0億円</p> <p>2006年 「UDON」 13.6億円</p> <p>2008年 「少林少女」 15.1億円</p> <p>2009年 「曲がれ！スプーン」</p> <p>2010年 「踊る大捜査線 THE MOVIE3 ヤツらを解放せよ！」 3位 73.1億円</p>
<p>羽住 英一郎</p> <p>2000年より ロボットに所属</p>	<p>【主要監督作品】</p> <p>2004年 「海猿 ウミザル」 17.4億円</p> <p>2006年 「LIMIT OF LOVE 海猿」 2位 71.0億円</p> <p>2008年 「銀色のシーズン」 10.4億円</p> <p>2009年 「おっぱいバレー」</p> <p>2010年 「THE LAST MESSAGE 海猿」 2位 80.4億円</p> <p>2012年(予定) 「ワイルド7」</p>
<p>小泉 徳宏</p> <p>2003年より ロボットに所属</p>	<p>【主要監督作品】</p> <p>2006年 「タイヨウのうた」 10.5億円</p> <p>2008年 「ガチ☆ボーイ」</p> <p>2010年 「FLOWERS -フラワーズ」</p>

(注10) 1999年以前は配給収入実績、2000年以降は興行収入実績

主な制作実績

主な CM実績

- ・麒麟淡麗〈生〉（麒麟麦酒株）
- ・企業広告（旭化成株）
- ・LEXUS CT200h（トヨタ自動車株）
- ・iida（KDDI株）等

主な 音楽映像実績

- ・EXILE「PERFECT」LIVE TOUR オープニング映像
- ・AKB 48「Everyday、カチューシャ」MV（注11）
- ・倅田來未「好きで、好きで、好きで」MV
- ・中島美嘉「永遠の詩」MV
- ・倉木麻衣「SUMMER TIME GONE」MV 等

（注11）MV＝ミュージックビデオ

主な モバイル プロモーション実績

- ・PhoneBook（2010年 カンヌ国際広告祭 Cyber Lion SILVER（銀賞））
- ・ペアムービー（2009年 カンヌ国際広告祭 Media Lion GOLD（金賞））

財務関係情報(1)

連結貸借対照表(2011年3月期)

(単位 百万円)

	2011年3月期
流動資産	25,239
うち現預金	10,329
固定資産	14,323
資産合計	39,563
流動負債	15,370
固定負債	2,647
有利子負債	4,685
負債合計	18,017
株主資本	20,622
株主資本比率	52.1%
ROE	6.8%

財務関係情報(2)

連結損益計算書および連結キャッシュ・フロー計算書(2011年3月期)

(単位 百万円)

	2011年3月期
売上高	50,817
売上総利益	14,311
営業利益	3,501
営業利益率	6.9%
経常利益	3,469
経常利益率	6.8%
当期純利益	1,412
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,904
投資活動によるキャッシュ・フロー	891
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,821
現金および現金同等物の増減額	3,946
現金および現金同等物の期末残高	10,329

用語解説

プリプロダクション	映像制作に取り掛かる前の作業全般をいい、出演者、制作スタッフの決定、制作の実行予算・スケジュールの策定、脚本や絵コンテなどの作成、撮影手法等の検討などを行う段階のこと。
プロダクション	実際の映像制作。撮影をメインに、作品に係るCG（コンピュータ・グラフィクス）の作成や音楽、効果音づくりを行う段階のこと。
ポストプロダクション (ポストプロ)	撮影素材を作品の流れに沿って編集を行う、色調を調整する、CGとの合成や音声と合わせるなど、映像の制作工程で撮影終了時点から作品完成までの処理工程のこと。また専門にこれらを扱う部門や会社の総称。
VFX	Visual Effects（ビジュアル・エフェクト）の略で、特撮を用いた映画やテレビドラマにおいて、現実には見ることのできない画面効果を実現するための技術のこと。視覚効果（しかくこうか）ともいう。撮影現場での効果をSFX（Special Effects, 特殊効果）と呼ぶのに対し、撮影後のポストプロダクション段階に付け加えられる効果をVFXと呼ぶ。
CGI制作	CGI（computer generated image）は計算機で生成・加工された画像の総称で、CGより意味が広い。CGI制作は、3次元コンピュータ・グラフィクスを描くだけに限らず、実写画像データをフォト・レタッチなどで加工したり、3次元コンピュータ・グラフィクスと実写画像を合成し、新たな画像を生成すること。
3D撮影	3D映像は、2Dで通常に撮影されたものを変換技術を用いて立体映像化することもできるが、立体視は右眼・左眼の視差によるものなのでこれを応用し、2つのレンズでそれぞれ異なった角度で被写体を撮影する3D専用のカメラにより撮影する。 当社のシステムは、撮影と同時に視差（飛び出し／奥行き感）調整ができ、効果的な立体映像づくりが効率よく行える。
デジタル上映	従来のフィルム映写とは異なる、映像や音声デジタルデータ化された上映方式のこと。映画作品の映像・音声等全ての情報を物理メディア（HDDなど）に格納し、それを再生することで上映する。

お問い合わせ先

株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス

経営企画室

TEL: 03-3280-7505

FAX: 03-3280-7504

Email: ir@imagicarobot.jp

URL: <http://www.imagicarobot.jp/>

【将来予測について】

本資料に記載されている当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。

**MAGIC
FACTORY**
imagera robot group